

# 下大和田谷津田だより

2003年4月号

## 第22回谷津田プレート・プロジェクト(YPP) さぐろう！味わおう！谷津田の春

3月29日 曇り

まずは田んぼで春の生きもの探し。大きく育ったオタマジャクシがたくさん田んぼで泳ぎ、水路ではメダカやドジョウの姿が見られました。田んぼの中に最近産みつけられたヒキガエルの卵は子どもたちに人気で、棒の先にひっかけてその長さに歓声をあげていました。お母さんたちも恐る恐る卵に触っていたのは感心！斜面林の近くでは大きな親のヒキガエルが見つかりました。田んぼではタネツケバナがあちこちに花開き、クレソンに似たおいしい味のその葉っぱに感激の声があがっていました。

次はいよいよ食べる野草探し。ニワトコ、カラスノエンドウ、ドクダミ、ミツバ、ヨモギ、ツクシ、タネツケバナ、セイタカアワダチソウなどなど10種類以上の野草が見つかり、さっそく天ぷらにして食べました。春を谷津田で味わうのは最高！揚げるそばから大小の手がのびて、たくさん採ったはずの野草があっという間になくなってしまいました。ヨモギはお団子にしていたいただきましたが、こちらは大変な人気でした。子どもたちは棒の先に付けて焚き火で焼いて食べていました。

肌寒い上、最初は小雨が降る天気でしたが、とてもたくさんの方が参加し、味覚を含めてまさに五感フル活用で谷津田の春を楽しみました。

(参加者：大人33人・小学生11人・乳幼児12人、報告：高山邦明)

## 第39回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

3月2日

花の咲いている植物はまだ僅かでしたが、水もぬるみ春が感じられる観察会でした。アカガエルの卵塊は半数が孵化していました。ゲンゴロウの仲間や水生昆虫も泳ぎまわっていました。鳥ではベニマシコが2羽、クサシギが1羽などが特記です。我々の誰かの車が轢き殺してしまったと思われるぺちゃんこのヒミズもいました。久しぶりにゴミ拾いもしましたが、可燃ゴミは2袋がすぐいっぱいになってしまいました。

植物：オオイヌノフグリ、スズメノカタビラ、セイヨウタンポポ、タネツケバナ、ナズナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ

野鳥：アオジ、エナガ、クサシギ、シジュウカラ、ジョウビタキ、セグロセキレイ、ダイサギ、ベニマシコ、ムクドリ、メジロ、モズ

昆虫ほか：オオカマキリ(卵のう)、ナガコガネグモ(卵のう)、ニホンアカガエル(卵塊とオタマジャクシ)、ヒミズ(死体)

(報告：網代春男)

## 下大和田季節のたより

3月8日 アカガエルはほとんどが孵化し、田んぼのあちこちにオタマジャクシの黒い塊が見られる。ヨモギが芽を出し、田んぼのタガラシが急に大きく伸び出した。

3月15日 ウグイスのさえざりが聞こえる。まだ鳴き方は頼りない。タネツケバナが一面に咲き始めた。

3月21日 ポカポカ陽気の春分の日。田んぼの水はとても温かく、大量のミジンコがうごめき、クモや小さなトビムシが水面にたくさん見られる。タコノアシ、ドクダミ、カラスノエンドウなどが芽を出し、それを食べる毛虫の姿も。アリが巣の補修に精を出していた。日差しを浴びてルリタテハが元気良く舞っていた。

3月30日 シュレーゲルアオガエルが鳴き始める。

谷津田にも本格的な春が訪れ、1週間おいただけでも様子が大きく変わっているほどです。一番気持ちの良いこの季節、ぜひ、お近くの田んぼに足を運んで春を探して下さい。

高山邦明